

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

資源循環型で地域に密着した 家族型酪農経営を今一度考える

全国酪農業協同組合連合会
代表理事会長 砂金 甚太郎

「理解醸成活動」秋葉原にて大々的にPR!!

ご当地牛乳・乳製品 特集(北海道)

監査室だより／内部管理態勢の強化と不正防止の観点について



酪農トピックス／北福岡工場 第27回ミルク祭りで笑顔満開!(北福岡)

若手後継者の本音／菅原 啓緒さん

嫁・婿が語る酪農の魅力／小笠原 幸子さん

日本酪農見て歩紀 (島根県出雲市 伊藤篤男牧場)



10

2013 October No.577



全国酪農業協同組合連合会

資源循環型で地域に密着した 家族型酪農経営を今一度考える

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 砂金 甚太郎



清秋の候、全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成25年度も早や半年が経過しましたが、一言ご挨拶申し上げます。

最近のトピックスの一つに、2020年東京でのオリンピック開催があげられます。ニュース報道を見ておられますと、確かに日本が活気を取り戻したように感じられます。しかしながら実態は、東北や関東は東日本大震災からの復興の途上にあり、酪農家の中にも生活や経営に不自由を被っている方がおられます。その際には、一戸でも多くの仲間・酪農家が従来の生活と営農を取り戻されていることを願ってやみません。

さて、酪農情勢につきましては、平成25年9月に至るまで、配合飼料や輸入乾牧草の高騰が続き、酪農経営にとっては厳しい局面となっております。平成25年10月から飲用向け乳価の値上げが決定しているとはいえ、飼料原料の国際価格の高じまり、

TPPへの参加問題等にて予断を許さない状況が続いており、酪農経営の将来像が描けないという酪農家の不安の声が多く聞かれます。果たして、我が国の酪農はどのように進展していくのでしょうか？

我が国の酪農経営は、これまで主に米国の飼養管理技術を参考にして多頭化の道を歩んできました。中でもフリーストール牛舎とミルクキングパーラー施設による急速な規模拡大は、作業の効率化・高度化を実現し、酪農経営の一つの方向性を示しました。

しかし、酪農の中心的経営資源は「土一草一牛」であることを忘れてはなりません。堆肥還元や国土の保全を考えると、「資源循環型」ということが、我が国の酪農の宿命だと言えるのではないかと思います。

その資源循環型酪農を確立していくためには、立地条件に合った乳牛頭数、労働力、飼料作面積、資本金がそれぞれバランス良く結合していることが必要です。当然ながら、この資源循環型酪農への取組の結果が省力化や収益性を妨げるものであってはなりません。

これらの厳しい条件をクリアできる経営形態の典型といえるのが「家族型酪農経営」ではないでしょうか。中規模酪農にとって合理的であった土地利用による資源循環型酪農が、大規模経営では困難になる場合が少なくありません。これまでに、規模拡大が全ての地域・農家において進められる道だと考えられた場面が数多くあります。

家族型酪農経営の最大の強みは、資産の所有と経営、そして労働力が結合されていることにあります。後継者育成機能、高齢者扶養機能、幼児扶養機能など、都市部で大問題になっているような一般家庭における課題を解決する社会の規範的基本単位となっているのが現実です。私は身を持ってそのことを実感しています。

しかし、その一方で、過重労働や、どんぶり勘定」といった言葉で、家族型酪農経営の厳しさや甘さを問われることがあります。

過重労働に関する課題は、家族だけで全て解決できるものではありません。地域の家族経営が協力し合い、労働力、土地そして資産を相互補完していくことも

求められます。すでに、機械や土地の効率的利用はその取組として進展してきていますが、酪農ヘルパーを含め、経営規模の縮小をしなくてもすむような、中期的に労働力を確保できる体制が必要です。経営意識に関する課題は、地域での切磋琢磨が求められます。その点に関しまして、弊会としては、各種の研修会の実施やDMS（酪農家経営支援）システムを利用して頂くことにより、地域のニーズに応えていく所存です。

また、家族型酪農経営で在りがちな労働力の問題、経営意識の欠点を補うためには、同じ目的を持つ仲間作りをすることや、酪農家のみならず地域との連携が不可欠ですが、それらを補うことができれば、今、不安がられている今後の酪農経営に光が差す可能性大と考えます。

私自身も酪農家ですし、組織人です。地域に密着し、親・子・孫が継続して酪農が出来る様な家族型酪農経営の在り方を今一度考えてみることも必要な時期に差し掛かっているのではないかと強く思う次第です。

そして、組織人として日本酪農を、将来にわたり確固たる位置づけにするために、微力ですが、安心して皆様が家族型酪農経営を持続できるその体制づくりに取り組んでまい、所存でございます。

最後に、ありきたりの言葉で締めくくることがありますが、

「会員・酪農家の皆様、共に頑張って酪農を続けていきましょう」。

10月からの飲用牛乳
値上げに対して
消費者へ理解を訴える

理解醸成活動

秋葉原にて 大々的にPR!!

— 全国各地で順次開催予定 —



▶ 街頭で訴える大井委員長



台風一過の秋晴れが広がる9月28日(土)、東京都千代田区秋葉原駅前のUDXサポニウス広場において、飲用牛乳値上げに対する理解醸成活動を開催いたしました。これは、本会が事業実施主体となった「国産牛乳乳製品需要緊急確保事業」により、10月からの牛乳値上げについて一般消費者の理解醸成を図り、牛乳消費の落ち込みを防止する目的として開催したものです。全国酪農青年女性会議にも協力をいただき、総勢約50名で保冷エコバック・チラシ5,000枚を配布しながら、一般消費者へ理解を求めました。

◀ 配布の様子



状況を、飼料サンプルやパネルを使い、また牛の着ぐるみや統一のハッピを着て視覚にも訴えながら通行者の方々にPRしました。

全国酪農青年女性会議の大井委員長を始め、委員の方が「私たち酪農家は、毎年廃業者が増え、ここ5年間で約20%も減少しています。高齢による廃業もありますが、近年のエサ代や輸送費、円安のためコストが大幅に増え、酪農家の経営をひっ迫する事態になってきています。このままだと、安全・安心な国産牛乳を安定して皆さんにお届けできなくなる日が来るかもしれません。どうか私たちの心を込めて搾った牛乳をもっと飲んでください」と街頭で訴えました。主婦を始め、

若い方も足を止めて説明を聞いていただき、酪農家の厳しい現状を理解していただく機会となりました。



この理解醸成活動は、今回東京にて大々的に実施後、全国各地のイベント等で順次実施していく予定であり、会報にも順次掲載してまいります。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



若手後継者の
本音

Vol.4

地域の仲間と共に夢とゆとりある酪農経営を目指す後継者

宮城県遠田郡涌谷町 菅原 啓緒みちおさん



菅原さんご家族

概況

今回取材させていただいた菅原牧場は、宮城県酪農農業協同組合（半澤善輝代表理事組合長）に所属し、経産牛40頭、育成牛10頭、繁殖和牛10頭を飼養しています。現在、主に経営に携わっているのは、経営者であるお父さんの潤さん、お母さんの美代子さん、ご本人の啓緒さんの3名の家族体制で行っています。

今回は後継者である啓緒さんにお話を伺いました。

就農のきっかけを教えてください

高校卒業後は、宮城県農業実践大に進学しましたが、後継者としての意識はそれほどありませんでした。卒業後、叔父の薦めもあり国際農業者協会の派米2年制プログラム



搾乳牛舎

を利用し、ワシントン州のヤングレンファームで研修しました。ヤングレンファームは兄弟2人で経営する、経産牛700頭、16頭ダブルのアプレストパーラーの牧場でした。

また、実習中にネブラスカ大学で3ヶ月ほどアメリカの畜産について研修しました。全てが大きくて衝撃を受け、帰国後、アメリカのように管理された大規模酪農を夢見て実家

を継ぐことを決心し、平成17年7月に後継者として就農しました。

現状について

就農当初はアメリカのような大規模酪農の夢を持っていましたが、配合飼料の高騰や生乳の減産計画もあり、大きな投資の規模拡大ではなく既存の施設をそのまま利用しながら生産性の上がる取り組みを行うことにしました。

そのひとつとして、近隣に和牛繁殖農家が多かったことや自身の繁殖成績が良好だったことが決め手になり、労働力を増やすことなく取り組める和牛受精卵移植を始めることに

しました。その後、近隣の酪農家と和牛繁殖農家で平成20年に「受精卵研究会」を立ち上げました。E.T産子の和牛スモールも市場で高い評価を受け始め、収益力の強化につながっています。また、遺伝改良の早いE.T和牛は和牛繁殖農家の優良素牛づくりに貢献しています。

一方、牛群維持に必要な数の後継牛を確保するために、能力の高い母を持つ育成牛には積極的に性選別精液を使っています。また、経産牛に関しては高能力輸入受精卵産子に授精し採卵、移植をする事で経産牛の数を減らすことなく牛群を維持しています。

自給粗飼料増産の取組みとして、平成21年8月に町内4戸の酪農家と1戸の和牛繁殖農家で「涌谷町飼料増産組合」を立ち上げました。作付面積の拡大と適期刈り取りを実行することで良質な自給粗飼料の確保が



▶ 育成牛舎



和牛牛舎

実現できるようになり、また、共同利用草地への堆肥還元も容易になりました。

飼養管理面では、喰いこみの改善を図り、夏場のストレス軽減対策として、今年4月からTMR給与方式を導入しました。その効果は疾病防止や繁殖成績向上にできぬに表れ、今年の夏は疾病で倒れる牛は1頭もおらず、7月に受精卵移植と人工授精をした14頭中11頭も受胎しました。夏場に限らず、1年を通して高い受胎率となっています。

実習生の受け入れ

7年ほど前から地元農業高校の生徒を実習生として受け入れていきます。私自身も、国内外の牧場で3年ほど実習し、たくさんの人たちに育ててもらいました。今の自分があるのもその時の経験があったからと思っています。実習生が「農業をやるうかな」と少しでも思ってくれたらいいなと思います。作業の手伝いだけでなく色々な事を伝えたいと思っています。毎年積極的に受け入れていきます。

昨年お子さんが誕生されたと伺いましたが？

やりがいというか、酪農に取組む覚悟が出来たような気がします。

子供にとって魅力のある経営にしていきたいです。魅力ある経営であれば自分の子供も後継者として育ってくれるのではないかと思っています。

今後の目標について教えてください

経営規模としては、当面、既存牛舎のフリーストール部分を10頭分増やし、和牛受精卵移植を活用しながら搾乳牛を50頭にしたいと考えています。将来的には、牛舎を建築し100頭搾乳が出来るようにしたいと思っています。

後継牛は、高能力優良受精卵移植で改良を進めていきたいと思っています。また、アメリカではゲノムでの数世代の数値化がされていますので、それを利用して遺伝子レベルでの改良にも取り組んでいきたいと思っています。

現在、地元青年部や宮城県ホルスタイン改良同志会に所属していますが、その活動にも更に積極的に参加し、仲間との意見交換を参考にしていきたいと思っています。

話しの端々に、少しずつではありますが、具体的な目標を掲げ、それを着実に実践していく実行力を感じることができました。お子さんの誕生を機に、更なる飛躍を期待します。

農酪ンター愛

嫁

婿

が語る

酪農の魅力 ⑮



10月の嫁 岩手中央酪農協同組合二戸事業所管内 小笠原 幸子さん

「嫁が語る酪農の魅力」第15弾として、岩手中央酪農協同組合二戸事業所管内 小笠原牧場の小笠原 幸子さんにお話を伺いました。

小笠原牧場の概要と幸子さんの役割を教えてください。

私の牧場は岩手県二戸市上斗米にあります。所属組合は、岩手中央酪農協同組合の二戸事業所になります。私の住む二戸市は、岩手県内陸部の北端に位置し、北上山地、奥羽山脈からなる山地、丘陵地が約9割を占め、折爪馬仙峡県立自然公園をはじめ、金田一温泉など豊かな自然環境に恵まれており、市街地には南北に流れる馬淵川の河岸段丘状に形成され、稲庭高原や安比川など貴重な自然が多く残っており、葉たばこや漆塗り、天台寺（瀬戸内寂聴さんが名誉住職）が特に有名です。家族構成は、主人（昭さん）、私（幸子）、両親（重さん、サタさん）、次女（良佳さん）の5人家族です。平成17年に牛舎を増築し、30頭の対尻式の牛舎になりました。現在、搾乳牛22頭、哺育育成牛13頭を飼養しています。

主人は、搾乳と畑作業を担当しております。私は育成と給餌作業を担当しています。娘の良佳が保育士として働きます。また、現在は、経理は主人が主に担当しています。今後は私が簿記に挑戦

しサポートしていきたいと思っています。

ご主人との出会いから結婚までの経緯について教えてください。

私は、東京の荒川区に生まれ育ち、高校卒業後は都内の銀行でOL生活をしていました。一身上の都合で青森県へ移り住むこととなり、私が青森県内のラーメン店で働いているところに、偶然、主人がお客さんとして訪れたのが最初で、徐々に訪れる回数が増え、いつの間にか常連となり、積極的な姿勢やまっすぐな人柄に惹かれ、平成16年に結婚することになりました。

酪農に対する思いと苦労したことを教えてください。

結婚当初は、酪農を手伝うとは思っていませんでした。主人におにぎりや飲み物を差し入れるため牛舎に入ったのがきっかけで、少しずつ作業を手伝うようになりました。牛舎に入ると、牛達が大きな目で私を一斉に見るのでびっくりしましたが、もともと動物が



小笠原幸子さん夫婦

好きでしたのですぐに慣れる事ができました。

私が酪農の仕事に携わって最初にしんどいと思ったのは、子牛の出産に立ち会った時です。子牛が生まれるとカウハッチまで運び、体を綺麗に拭いてあげて休む暇もなく初乳を与え、終わった頃にはくたくたになっていました。それでも、毎日育成を担当していると、日に日に成長していく子牛が愛しくなり、家畜車に載せられていく雄子牛の姿をまともには見ることが出来ませんでした。今では高値で売れるようになると祈って送り出しています。

——幸子さんが思う酪農の魅力について
教えてください。

酪農は夫婦・家族と一緒に仕事ができること、また、牛という生き物を飼っているところが最大の魅力だと思います。作業そのものは毎日同じことの繰り返しですが、日々新しい発見があり、毎日牛達に刺激をもらっています。銀行に勤めていたころの机上の仕事と違い、体を動かして仕事ができるという面でも自分には合っていると思います。

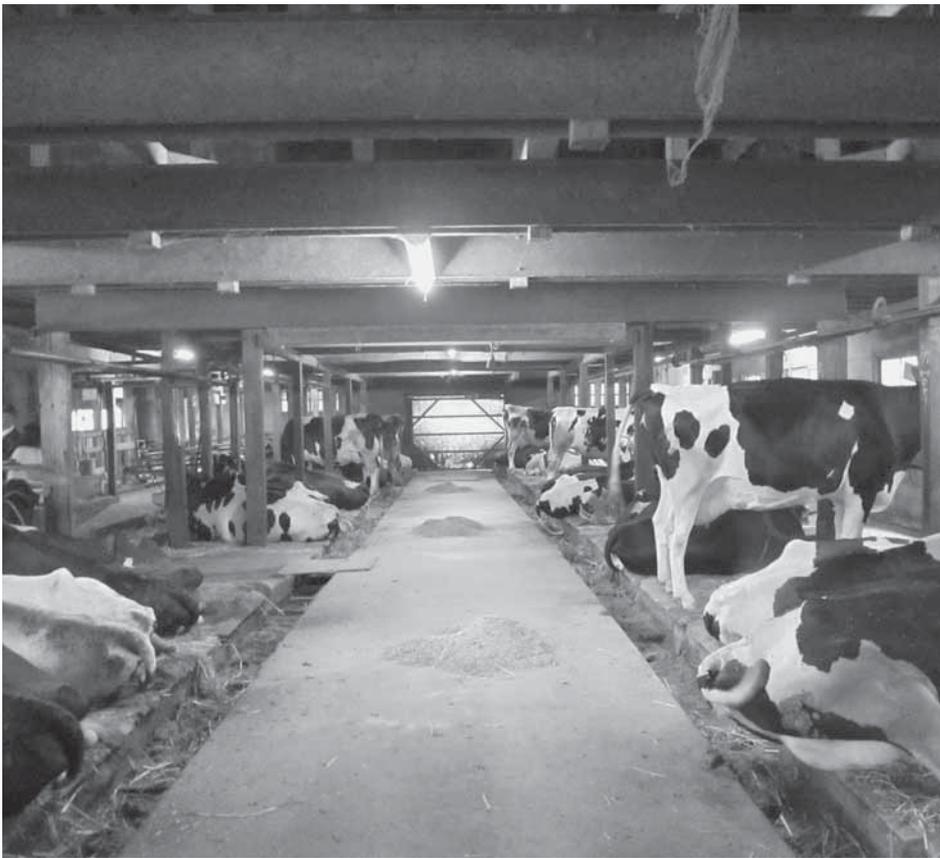
餌やりの時など、牛達が自分を待つ



牛舎前

ててくれると感じると、いくらしんどくても「頑張ろう」という気持ちになるし、牛達に癒されることもしばしばです。子牛の育成作業も日々勉強で、自分がやったことが良くも悪くも結果としてそのまま表れるところも魅力に感じます。

また、酪農は周りの仲間と一緒に色々な活動ができるのも素晴らしい特徴だと思います。昨年、全国大会意見体験の部で発表する機会を得、全国の酪農仲間や関係者と交流しましたが、自分がやってきたことが間違いでなかったと確信することができました。



牛舎内部

現在は主に夫婦2人でやっていますが、娘の良佳が結婚し、後継者として入ってくれば二世代でやりたいと思っています。その際は規模拡大も考えたいし、以前から手伝ってくれている娘も酪農を継ぐ考えは持ってくれているようです。その時は孫の面倒をみながら今の作業を続けることがささやかな夢です。

——最後に、ご主人の昭さんより幸子さんに一言お願い致します。

「特に何もありません」と言いながらも、この取材中、幸子さんにずっと一緒に付き添われ、感謝している様子がひしひしと伝わってきました。おそらくこう言いたかったと思います。知らぬ世界から酪農の世界へ飛び込んできてくれて色々苦労があったと思いますが、いつも前向きに、元気に取り組んでくれてありがとう。本当に感謝しています。これからもよろしくお願いします。」

——今後の夢について教えてください。

現在、組合の青年婦人部、更には東北酪農青年婦人会議の役員として関わっています。これからも少しでも活動のお手伝いできればと思っています。



ご当地

牛乳・乳製品 特集

日本各地に様々な種類がある牛乳・乳製品ですが、他地域でどのような商品があるかご存知でしょうか？ご当地でしか食べられない牛乳・乳製品をご紹介します！と立ち上がった今回の企画。初回となる今月号は北海道の商品をご紹介します。

サツラク ピュアブラン

価 格：630 円 (税込)
製造者：株式会社サッポロミルク
販売者：サツラク農業協同組合
〒007-8511 札幌市東区丘珠町 573-27
<http://www.satsuraku.com/>
オンラインショップで2個セット
(1,260 円 (税込)) も購入できます。



内容量：170g
原材料 (成分表)：発酵乳、砂糖

問い合わせ先：011-785-7800
購入可能場所：ミルクの郷まきば館売店 (サッポロさくらんど内)、
マオイ牧場倶楽部 (長沼町道の駅マオイの丘公園内)、
札幌丸井今井きたキッチン、北海道どさんこプラザ札幌店

アピールポイント

- 北海道サツラク農協組合員の牧場から搾られた生乳と北海道産の砂糖で作られたヨーグルトを原料としています。そのヨーグルトの水分をぎゅっと搾って濃厚でなめらかなヨーグルトベースト (殺菌) に仕上げました。
- カロリーはクリームチーズの約半分、カルシウムは約3倍です。

乳ほた餃子

価 格：800 円 (税込)
製造者：佐藤広光
販売者：中春別農業協同組合
<http://ja-nks.jp>
問い合わせ先：0153-76-2005
(Aコープ中春別店)
購入可能場所：中春別農業協同組合「Aコープ中春別店」、札幌市北広島「くるるの杜」、道の駅「尾岱沼」

内容量：1パック10個入り
※郵送料は2パックセットで以下の通り(クール便)

北海道	東北	関東	北陸・中部	関西	九州
850 円	1,160 円	1,270 円	1,370 円	1,580 円	1,900 円

原材料 (成分表)：(具) 国産豚肉、キャベツ、白菜、にら、玉ねぎ、ホタテミミ、ホタテ、にんにく、生姜、醤油、酒、塩、ゴマ油、オイスターソース、コショウ、(皮) 小麦粉、米粉、牛乳



アピールポイント

- 皮～中春別産低脂肪牛乳を練り込んだ皮はもちりとした食感が楽しめます。
- 具～尾岱沼 (野付産ホタテ) を使用し海鮮のうまみが口いっぱい広がります。
- こだわり～すべての工程を手作りで製造しております。



サツラク こだわり牛乳

価 格：1000ml 268 円 (税込)、500ml 158 円 (税込)
製造者：株式会社ミルクの郷
販売者：サツラク農業協同組合
〒007-8511 札幌市東区丘珠町 573-27



<http://www.satsuraku.com/>
問い合わせ先：011-785-7800
購入可能場所：ミルクの郷まきば館売店 (サッポロさくらんど内)、
東光ストア、西條、北雄ラッキー、
西友 (北海道限定販売)

内容量：1000ml、500ml
原材料 (成分表)：生乳100%

アピールポイント

- 牛乳中の栄養成分や風味を損なわないように、65℃ 30 分で殺菌した低温殺菌牛乳です。
- 「遺伝子組換えとうもろこし」等を使用しない、こだわった飼料で育てているサツラク農協組合員 11 戸の牧場から集められた、良質なこだわりの牛乳です。

おこっぺアイスセット

価 格：3,500 円 (税込)
製造者：北オホーツク農業協同組合
販売者：北オホーツク農業協同組合 〒098-1693 北海道紋別郡興部町字興部 518 番地
おこっぺアイス直売店 〒098-1605 北海道紋別郡興部町字興部 107-57
<http://ja-kitaokhotsk.jp/>
問い合わせ先：おこっぺアイス直売店 0158-82-2961
購入可能場所：JA全農ネットショップ「JAタウン」、札幌大丸北ほっぺ、北見バラボ、旭川イオン壱月家

内容量：120ml ミニカップ 12 個入り
送料：道内 600 円、東北関東 1000 円、中部北陸関西中国 1100 円、四国九州 1400 円
原材料 (成分表)：生乳・生クリーム・グラニュー糖・脱脂粉乳 他
アレルギー：乳 (バニラ、チコリコーヒーについては乳・卵)



アピールポイント

- オホーツクの厳しくも豊かな自然で、たくましく健康に育った乳牛から生産された生乳を原料に、安定剤・乳化剤を使用せず、原料のおいしさをそのまま詰め込んだアイスです。

内部管理態勢の強化と不正防止の観点について

最近、マスコミでは某鉄道会社のガバナンスについての話題が盛んに報道されており、企業統治（コーポレートガバナンス）、コンプライアンス、業務ルールの遵守、危機管理（リスクマネージメント）、内部統制（内部管理態勢）の機能強化等が、企業や組織に求められるようになって久しいですが、依然としてこの問題は根本的には解決されてはおりません。

毎日、様々なところで、企業の不祥事、不正、危機管理（リスクマネージメント）不足による事件、事故の報道がなされています。今後も、ますます社会の企業活動に対する管理・監視・運営強化対策が求められるでしょう、その傾向は強まるものと思われます。

1 不正、不祥事はどのぐらい発生しているか

平成24年度に全中に報告のあった不祥事件数は上期86件で、前年同期比94件より減少しています。しかし漸減はしつつも、平成20年度から24年度でみると年平均約200件ほどの不祥事が報告されていることとなります。

2 不正、不祥事はなぜ発覚したか

公認会計士協会によれば、企業における不正発覚の端緒は社内通報が4割という報告になっています。

また、平成24年度上期におけるJA監

3 不正、不祥事が発生する事業に傾向はあるのか

不正、不祥事という点、すぐにお金・信用事業との想像をしがちですが、JA監査を巡る最近の情勢によりますと、平成20年から平成24年の全体に占める不正の平均部門別発生占有率は左記のとおりであり、事業別に〇〇事業に不正が多いとは言えない現状です。

信用事業28.4%、共済事業24.1%、経済事業27.6%、その他19.8%

4 不正による損失金額はどのぐらいか

JA監査を巡る最近の情勢（平成24年度上期）によると、被害総額という事での提示はされていませんが、1件当たり百万円以下の被害額が全体の約5割、1件当たり1千万円以下の被害額が全体の約3割で、この2つで全体の8割を占めています。中には1件で3千万円以上の被害額が発生している重大な不祥事も発生しています。

5 どのような不正が多いのか

JAを巡る最近の情勢について、平成20年度から24年度の不祥事件等の発生状況によると、横領、盗難、不正融資、共済不正契約、法令違反、その他（組織受託会計等）の分類において、横領が全体の不正の約6割をしめているとのことです。

6 なぜ不正が起きるのかその背景

社会環境の変化

従業員の仕事環境が大きく変化

不況、市況縮小、顧客減少、市場競争激化、給料減、人員減による過重労働、担当業務の変更、転勤、勤務地変更、早期退職、出向、引き抜き等等

将来不安や帰属意識の弱まりが、善良

7 そもそも不正はどのように起こるのか

な従業員の心の引き金を引き、突然変異させ悪意を抱く可能性がある。



性弱説

人は性善だから？性善説に則るべきか、性悪だから？性悪説に則るべきか。最近言われていることは、元産業再生機構COOの富山和彦氏によれば、性弱説（人は弱いもの）に則り組織は対応すべきという考え方です。

人は弱いもので、簡単に不正ができる環境にあり、しかもそれが露見するリスクが少なければ、そして、偶然そのような機会に出会えば、つい出来心で不正をしたくなってしまふ。

不正のリスクが高まる3要因

①機会がある（不正を行うチャンスがある）
 ・複雑な取引、処理を自分ひとりで行っている。（他の人は分からない）



- ・上司は形だけのチェックで何も言わない。

② 動機がある（他人に打ち明けられない事情がある）

- ・借金がある。高価なものを手に入れたい。

- ・収支悪化の脅威、業績達成へのプレッシャー。

③ 正当化する（背信行為の自己正当化）

- ・自分は頑張っているのに給料が少ない。
- ・あの人はよろしくやっているのだから、

自分も少々のことはいいじゃないか。よって、不正を未然に防ぐためにはこの

3つのリスク要因の芽を摘んでいくことです。その中でも①の機会をつぶしていくことが一番重要になってきます。

- 特定の人に任せきりにしない。
- 定期的にジョブローテーションを行う。
- 上司がチェックをいれる。

- 不正をしようと思う本人が、誰かに気付かれる可能性があると思えば、行為を

思いとどまる状況、環境を確立する。（自主検査、内部監査、相談受付要領等）

8 不正の起りやすい場所（セクション）とは

基本的に不正はどこにでも発生する可能性があります。しかし、あずさ監査法人の不正発生の相談事例によると

① 本社、本体から離れている（遠い）事業所（子会社、目の届きにくい所場、海外事務所含む）

② ノンコア事業（いわゆる会社の稼ぎ頭会社の主力業務部門ではないセクション）

③ 新規事業、赤字が連続している事業部門（子会社含む）

が主な相談の対象となるケースが多いとことです。

9 不正リスクのインパクト

不正、不祥事はあくまで不正、不祥事なのですが、その各事案が社会、会社に及ぼす影響には大きな差があるのも事実です。

● 不正リスクカテゴリー

① 贈賄

② 国際カルテル

③ 反社会勢力（テロリズム）関与

④ インサイダー

⑤ 不正会計

⑥ 情報漏洩（営業秘密・個人情報）

⑦ 横領・キックバック

⑧ 競争禁止違反

⑨ 経費水増し請求

⑩ ハラスメント

左から右（⑩→①）に行くほど損害（コスト、風評被害）が大きくなり、事業存続の危機に晒される可能性が高くなります。そして、国内だけでなく他国と関連する不正の場合は、国際的な制裁が発生することもあります。

（株UBICより）

10

管理態勢上、職場の上位者が不正を未然に防ぐため留意すべき不審行動

左記はあくまで不祥事が発生した後に検証を行った結果、そういえばこのようなどころがあったという例であります。このような行動が危険信号の場合もありません。

という意味であり、必ずしも不正の兆候であると断言するものではありません。

● その行動例とは…

「休暇の取得を拒絶する」「やたら休日出勤が多い」「人がいなくなるまで残業する、または早朝出勤が多い」「不正発覚を恐れて昇進を辞退する」「同僚との少額金銭貸借」「業務に関係のない外部からの電話が職場にかかってくる」「外部と携帯通話をヒソヒソ行っている」「私物の外部媒体を持ち込む」「メール、ファクシミリの誤送信が多い」「ついいうっかりという言い訳で携帯電話、PC、USBメモリなどを紛失したり、盗難被害にあつたりする」「自宅で仕事をするとしてパソコン、データ、資料を持ち帰る」「社内内で素行の悪い風評が聞かれる」「合理的な質問に対していらだつ」「質問に

対して非合理的な説明が混じる」「会社の備品を持ち帰る軽微な不正を日常的に行っている」「過度の飲酒をする」「車、家具等高級品を購入した」「自分に対する嫌疑をそらすために他人を批判する」「会社や上司の不満を口にしている」「取引先、関係先との恒常的な付き合い、接待がある」「予定にない外出行動をする」「自慢癖がある」「大金を持ち歩いている」などです。

（株UBIC、森田務公認会計士事務所より）

11 今後予定している不正リスクへの取組

「企業の不正リスク実態調査2012」によると今後予定している会社としての不正リスクへの取組みについては、内部監査の充実69%、社内研修の充実53%、内部通報制度の整備・改善34%と早期発見に重点を置く企業が多かったとのことです。いずれにしても、多くの企業が不祥事を未然に防止する仕組みの必要性を強く感じているとのことでした。そのためにも組織が教育・指導・確認・点検を怠ってはなりません。

大きな組織になればなるほど内部統制（内部管理態勢）を構築するのは人的、予算的にも難しいものになります。しかし、この統制を構築することは、経営者や従業員を、ひいては協同組織においては会員を、会社においては株主を守る仕組みですので、組織として必ず構築されるべきものなのです。

北福岡
工場発

酪農生産者・地域の皆様に支えられて
北福岡工場 第27回ミルク祭りで笑顔満開！

3連休中日の9月22日(日)、本会の北福岡工場（岩手県二戸市・木元工場長）で「ミルク祭り」が開催されました。昭和61年に始まったこのイベントも、地域の皆様に支えられて今年で27回目を迎えることができました。

当日は、前日の雨が嘘のように秋晴れが心地よく、二戸市の子供と木元工場長、本会酪農部の戸辺副部長によるテープカットでミルク祭りは開会しました。県大会で金賞を受賞した石切所小学校マーチングバンドが開催を盛り上げた後、主催者を代表して戸辺副部長が挨拶し、来賓の二戸市 小保内敏幸市長、岩手中央酪農業協同組合 佐々木勲代表理事組合長（本会 代表監事）に祝辞を頂きました。

工場内の広場には本会のバター・チーズや奥中山高原農協乳業(株)の牛乳・乳飲料の即売コーナーが設けられた他、工場従業員によるソフトクリーム・焼きそば・焼き鳥・フランクフルトの販売コーナー、岩手中央酪農協からも串もちや田楽の販売コーナー、そして地元産直からは、新鮮野菜やくだもの販売コーナーが設けられました。また、独立行政法人家畜改良センター岩手牧場による手作りの牛模型による乳搾り体験、地元企業のユアテック(株)協力による高所作業車による地上13mの展望体験には大勢の子ども達が列を作り賑わっていました。

広場中央や特設ステージでは、大人から子どもまで楽しめるイベントが盛りだくさん。牛乳早飲み競争、手作りバター体験やゴーダチーズのカット実演・試食、スリッパとばしゲームが行われ、会場は歓声と大きな笑い声に包まれました。

二戸民謡保存会、一戸高校 華一、なにやとやら保存会による郷土芸能披露も行われ、地域に密着したお祭りであることを深く感じる事ができました。

これからも、北福岡工場は地元・二戸市に根ざした工場として、二戸市民に愛される工場を目指していきます。

(K.S)



▶ 牛乳早飲み競争



◀ 手づくりバター体験を楽しむ

ゴーダチーズ試食準備中 ▶



▲ ゴーダチーズ美味し～!!



▲ 乳搾りは大人気

▼ 高所作業車の上から



本所発

(一社)全国酪農協会主催 若手後継者が集う「酪農未来塾」を初開催!!

9月5日(木)～6日(金)、東京都港区南青山会館にて、(一社)全国酪農協会主催の「酪農未来塾」が開催されました。この研修は若手後継者育成と交流を目的としており、今回が初開催とのことで、全国から若手後継者・関係団体計69名(うち酪農家37名)が参加しました。

ホクレン農業協同組合連合会 瀧澤代表理事副会長による講演「わが国酪農の持続的発展を目指して」に続き、農場どないすんねん研究会 (NDK、正式名称：全国畜産支援研究会) が進行を務めるワークショップへと移りました。

ワークショップのテーマは、過去の最高体験から未来の夢を語る「ハイポイント・インタビュー」及び「酪農未来塾について考える」。若手後継者の皆さんは、全国の方と交流を持ちたいとの意識が強く、またNDKのファシリテーターが主導を取ることで、初対面の方とも臆することなく積極的に参加できる環境が揃ったこともあり、始まってすぐに交流の輪

が出来上がっていました。会場からは酪農未来塾について「ゴールが無いからこそ、将来へのヒントがにつながるのでは」「既存の団体では、受け身の研修が多いため、若手が自主的に動ける団体がほしい」などの未来塾に対する期待の声も上がっていました。

2日目は、4人1組のインタビューを開催予定でしたが、「参加者全員で話し合いたい」との意向から、急遽予定を変更し8項目(日本酪農の強み、仲間の作り方、親とのコミュニケーションの取り方、嫁婿問題等)について自由に協議が行われました。結論を出すことはせず、自由に話し合う事が出来たため、ここでも積極的な意見交換が行われました。

最後に、(一社)全国酪農協会の馬瀬口弘志会長より「今回の研修で出来た繋がりを今後どう繋げていくかが、本会の課題だと思う。今回話し合った内容を地域に持ち帰り、地域の中でも協議していただきたい」と締めくくり、1泊2日の研修を終えました。(K.S)



▲ NDKの皆さん



▲ 馬瀬口会長



▲ ワークショップの様子

本所発

「平成25年度全国畜産縦断 いきいきネットワーク大会」を開催!! — 今年も女性パワーをいかに発揮!! —

去る8月27日(火)、東京都中野区の中野サンプラザにて、「平成25年度全国畜産縦断いきいきネットワーク大会」(事務局：(公社)中央畜産会)が開催されました。平成17年に全国の畜産



▲挨拶をする島田玲子会長

に関わる女性達が畜種を超えた交流を行うことを目的に発足したこの大会は、今年から農林水産省・男女共同参画加速化事業に加入したため、関東ブロックセミナーとしても開催。畜産に関わる女性とその関係者約100名(うち女性は8割程度)が集結しました。

島田玲子新会長による挨拶の後、TPP反対を訴えた寸劇では、カラスの目線や主婦目線からのTPP反対意見をコミカルに演じ、会場の笑いを誘いました。その後、(公社)中央畜産会の伊佐地誠参与による「TPPと畜産経営について」の講演、「女性経営参画への提言」と題した2名による講話と続きました。

ディスカッション

タイムでは、6次産業化を行った方のお話や、女性参画に向け「地域を変えるには、家庭から変えていかなければならない」などの活発な意見を伺うことができました。また、2分間スピーチでは、10名を超える方が次々に壇上に立ち、家庭の事情や環境の変化がありながらも懸命に畜産業に取り組む様子を、時には目に涙を溜めながら話していただきました。

最後に会員代表者が壇上に集まり、「日本の畜産を守り抜くぞ!」と一致団結し、大会を締めくくりました。(K.S)



◀カラス役の方の名演技(寸劇)

▶「日本の畜産を守り抜くぞ!」



本所発

全畜連、全開連、本会による 「女性職員コンプライアンス研修会」を開催!!

9月20日(金)、全酪連本所(東京都港区)において、上記3連が主催となる「女性職員コンプライアンス研修会」が開催されました。この研修は各団体の交流と研鑽を目的としており、初開催の今回は女性職員を対象とし、3連合わせて約20名が参加しました。

本会坂本専務による挨拶の後、本会総務部法務・コンプライアンス課 有馬特別嘱託員を講師として迎え、コンプライアンスについて講演を行いました。コンプライアンスは、法令遵守という意味から社会良識、他



▲3連の女性参加者

社を尊重する規範にまで広義に及ぶこと、会社のため・人のためでもあるが自分のために実践すべきであること、個人の甘い判断が組織の不祥事を招き、経営を危険に晒す可能性がある点を話した後、DVDで実際に起こりそうな事例を見ながら解説しました。

参加者からは「今までコンプライアンスについて学ぶ機会が無く、貴重な経験になった」との話を頂くことが出来ました。この繋がりを今後につなげていき、3連のより良い関係を保つ一助になればと思います。

(K.S)



▲本会坂本専務による挨拶



▲有馬講師

東京
支所発

「関東甲信越酪肉経営技術研究会 正副会長会議」の開催

標記、関東甲信越酪肉経営技術研究会の正副会長会議が、8月28日(水)全酪連本所（東京都港区）で開催されました。この会議の歴史は古く、今年で22回目の総会を迎えました。今回の会議は、①視察研修旅行について、②第23回枝肉共励会について、③機関誌「らくにくけん20号」の発行について、などが協議されました。昨年は、「大阪府・兵



▲ 会議の様子

庫県内酪農家 南大阪食肉市場（第12回全酪連肉牛枝肉共励会）」などを視察研修しましたが、本年は東北方面に行く予定となりました。時期は12月初旬の予定です。



▲ 酪肉研 赤羽会長

また、この酪肉研が主催する第23回枝肉共励会は平成26年1月31日～2月1日にかけて開催することとなりました。本年は、食肉相場が堅調で、酪農家にとっては有難い状況ですが、経産牛価格も高く、本会の処理施設である「(株)全日本農協畜産公社」への出荷頭数が激減している状況で推移しております。皆様からの出荷を心よりお待ち申し上げます。

(S.T)

新規就農 経営移譲 を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Befarmer/index.php>

全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓
右下リンク

↓
新規就農情報 [(一社)酪農ヘルパー全国協会]
新規就農情報 [全国農業会議所]

福岡
支所発

宮崎経済連赤チームが連覇！ 「第38回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会」

去る9月7日(土)～9月8日(日)の2日間、大分県において「第38回九州・沖縄地区酪農団体職員親善スポーツ大会」が開催されました。

この大会は、九州・沖縄地区の酪農団体職員の資質の向上と親善及び団結を図ることを目的として毎年開催されております。

恒例の前夜祭は別府湾ロイヤルホテルで開催され、来賓として大分県農林水産部畜産技術室 天野洋史室長、全酪連から坂本専務並びに九州・沖縄地区酪農団体協議会、九州酪農政治連盟協議会役員等を迎え盛大に開催されました。主催者である九州・沖縄地区酪農団体協議会の尾形文清会長、来賓の天野室長、坂本専務の挨拶の後、地元大分県酪農協 清末健一代表理事組合長による牛乳での乾杯の発声で前夜祭は幕を開けました。総勢210名の酪農関係団体職員が、日々の業務を離れ、交流する場面があちこちに見られました。

ステージでは由布市庄内神楽愛好会の皆さんによる「子供神楽」の披露に続き、翌日のミニバレーボール大会の組み合わせ抽選、カラオケ大会と進行していきました。組み合わせ抽選では30秒間での腕立て伏せの回数勝負で、各チーム精鋭の2名により組み合わせの抽選権をかけ、腕っ節の強さが競われました。次に行われたカラオケ大会では各チームの代表による趣向をこらした歌や余興が披露され大いに盛り上がりました。



▲ 尾形会長挨拶 (懇親会)



▲ 清末組合長挨拶

ミニバレー ▶



◀ カラオケ大会 (福岡支所職員)

翌日は場所を杵築市文化体育館に移し、ミニバレーボール大会を行いました。各チーム練習の成果を発揮し激闘を繰り広げ、会場は各チーム応援団の歓声や、勝負がついたチームの一喜一憂の音が響いていました。決勝戦では激戦を制した宮崎経済連赤チームと九州生乳販連白チームが対決。ハイレベルな攻防の末、宮崎経済連赤チームが優勝し、昨年に引き続き見事連覇を成し遂げました。

表彰式で宮崎経済連赤チームには大会会長賞・全酪連会長賞が、準優勝の九州生乳販連白チームには中央酪農会議会長賞が、第3位の熊本県酪連赤チームには九州酪農政治連盟協議会会長賞がそれぞれ授与されました。

最後に次回開催県である沖縄県酪農協の新里重夫組合長が閉会の辞を述べ、来年の再会を約束し第38回大会の幕を閉じました。(Y.K)

大会結果

優勝	宮崎県経済農業協同組合連合会	赤チーム
準優勝	九州生乳販売農業協同組合連合会	白チーム
3位	熊本県酪農協同組合連合会	赤チーム



▲ 開会式



▲ 優勝旗を囲んでの宮崎チーム

福岡
支所発

「第3回かごしま県酪農おごじょの集い」 開催される — 鹿児島県酪農女性部 —

去る9月11日(水)、鹿児島サンロイヤルホテルにおいて、鹿児島県酪農農業協同組合女性部主催による「平成25年度かごしま酪農おごじょの集い」が開催されました。「おごじょ」とは、鹿児島弁で“かわいい女性”を意味します。当日は県内各地から女性部員104名が集いました。

集まった女性部員の皆さんは、まず会場内のレストランにて準備された豪華なランチバイキングに舌鼓をうちながら、話に花を咲かせていました。

開会にあたり女性部の迫千穂子部長、鹿児島県酪農協 塩崎久博参事が挨拶をされました。

オープニングは女性部役員による寸劇「あいうえお牧場—ある熱い夏の夜の出来事」の披露。女性部役員の皆さんが牛に扮して、同酪農協の北海道預託

事業や女性部の牧場美化運動等の活動について、鹿児島弁を交えてユーモラスに熱演し、会場からは大きな歓声が上がっていました。

続いて大隅支所、志布志支所酪農女性部によるコーラスが披露され、美しい歌声が会場内に響き渡りました。

講演会では、「元気があれば 何でもできる」と題し、タレントの野口たくおさんが講演を行いました。TV・ラジオ出演等、幅広く活躍されている野口さんの絶妙な語り口に、会場からは終始笑いが絶えませんでした。

参加された皆さんは日頃の疲れをしばし忘れ、笑顔いっぱい楽しい時間を過ごし、明日への英気を養われていました。(Y.K)



▲ 女性部 迫千穂子部長挨拶



▲ 塩崎参事挨拶



▲ 野口さん講演



▲ 女性部役員寸劇



◀ 大隅支所女性部コーラス



▲ 伊藤篤男農場長と学さん

No.245
伊藤篤男農場
島根県出雲市

地域全体を考える 行動派酪農家！

地域の紹介

伊藤牧場は、島根県出雲市佐田町に位置し、市内中心部より30分程度南西に向かった中山間地域にあります。近くには「わかあゆの里」が整備され、清流の流れが見る人を魅了しています。出雲市とえば、言わずと知れた出雲大社が鎮座し、神代の昔から国造りに勤しまれた地域であり、縁結びの神様とも言われています。今年は、60年に一度の平成の大遷宮の年に当たり、新しく造営された御本殿に大國主大神様がお鎮まりになりました。また、南には三瓶山が位置し、春夏秋冬それぞれの季節が鮮やかな地域です。

島根県は、全国に和牛の生産県として知られていますが、生乳生産量では岡山県に次ぎ鳥取県と肩を並べ、酪農家戸数134戸、平成24年度総受託量は63.751tです。前年比は7%強と高い伸び率を示し



伊藤牧場ロゴ

ています。

伊藤牧場が所属するJA出雲農協は、島根県中央酪農農業協同組合連合会（周藤昌夫代表理事会長）の会員農協でもあります。佐田町は、人口約4千人、7戸が酪農を営んでいます。



経営概況

現在の伊藤牧場は、経産牛110頭、育成牛70頭を飼養しています。年間生乳生産量は約1,000t、自給飼料生産は、WCSに取組み2.8haで220個（330kg/個）を生産予定です。また、河川敷の草をコントラクターに依頼して飼料にしているとのこと。

家族構成は、経営主の篤男さん（63）、お母さんの孝子さん（83）、奥さんの幸枝さん（63）、後継者の学さん（35）、学さんの奥さんの恵美さん（31）そして学さんのお子さん



哺育牛舎

2人の7人家族です。牧場の労働力は篤男さんと学さん、従業員3名の計5名です。現在1名を募集中のことです。

伊藤牧場の歴史

昭和33年に、篤男さんのお父さんが数頭導入したことから伊藤牧場の酪農経営が始まりました。篤男さんご本人は、東京の高校を卒業後、実家に帰るつもりがなく、カナダに行

こうとしましたが実現できず、北海道の牧場に就職が決まりました。しかし、ご家族の健康がすぐれずに呼び戻され、昭和45年に実家で酪農を手伝うことになりました。その時の経営規模は、搾乳牛10頭程度だったと振り返りながら話を聞かせて頂きました。その年の7月には、20頭牛舎を建設し、ご自身の経営をスタートさせました。昭和48年に第2期工事に着手し、20頭規模の牛舎を建設されました。搾乳牛40頭、育成牛30頭に規模拡大をされ、現在の規模は平成15年に完成しました。

後継に入るまでに…

学さんは、高校2年の時に既に後継者となることを決意していたため、大学在学中に現在の牛舎が立っている土地（牧草地）を植林するなど、条件整備に取り組み始めました。当時は、ヘルパー制度が無く休日も取れない状況だったので、雇用のできる酪農をすることが目標でした。学さんが帰ってくる時には雇用も可能な100頭規模にし、親の世代とは違った酪農をやらせたいと初任牛の導入はせず、育成牛をとにかく増やされました。

卒業後も、学さんはヘルパーに従事したり、畜産試験場で繁殖関係、特に受精卵移植等に取り組み経験を積んでこられました。



育成牛舎内

平成14年に事務所を建て、研修生を受け入れる準備をし、平成15年に牛舎を奥に建てて100頭規模（アプレスト式フリーストール）となり、この年に学さんが就農することになりました。6年程度を掛けた全てが後継者となる学さんへの橋渡しのための時間でした。

地域貢献

この地区は米作りを辞める農家があるため、昨年からは本格的に自給飼



刈取り中の飼料イネ・たちすずか

料（WCS）の生産にも力を入れ始めました。未来サポート（株式会社）を立ち上げ、若い人の雇用も始めています。篤男さんは、「そういう組織がないと中山間地の農業は守れない。酪農は、個人が頑張ればできるが、地域が荒れると困る。そのため、今はこういうことに力を注いでいる」と力説されていました。

また、「田舎のロケーションが昔のまま残っている風景の中でこそ、相乗効果で上手くいっている。酪農



◀ パン工場のスタッフと店長の恵美さん(右端)

家の周辺も、全体が自然の農業公園と捉えている。景観美が保たれている地域に貢献することが大切、田圃が荒れないことが重要な要素である」との周辺環境へも配慮した考えを伺うことができました。

さらに、前々から地域でもものづくりの考えを持ち、チーズ作りをしたなどの気持ちがありました。なかなか実現できませんでした。その時、学さんにパティシエでもある恵美さんがお嫁さん候補として紹介されました。恵美さんに、地元の農産物の加工とパン屋をやってみないか



◀ 牧場全景とパン工房(右手前)



▶ 場長手作りのイングリッシュガーデン

と提案したところ、思いがけず承諾してもらって幸運に恵まれました。恵美さんは、結婚するまでの間にパン屋さんで修業までして準備をされました。そして、平成18年に念願のパン屋をオープンすることができました。これも、牧場を含めた地域の景観を楽しんでもらえる空間づくりが出来たら、との思いからでした。イングリッシュガーデンも景観づくりの一環で、篤男さんが手作りで完成させました。地域の雇用創造も重要と近隣にパン屋での仕事を依頼してみました。良い返事はもらえず、仕方なく家族で始めました。現在は、近隣の方数名に従事して頂いていま

す。食材も、地元の営農組合で米粉用のコメを栽培してもらっており、ヤーコンや栗、カボチャ等ほとんど地元の食材を使っています。地元の農産物、素材を使うことで、他にないストーリーができるとの考えからです。

平成19年には、食育活動も始めたいと思い「酪農教育ファーム」の認証も取得し、従業員をファシリテーターに育成しました。コンセプトは『現場で命の大切さや、もの大切さを体験してもらおう』です。バター造りやパン作りにも取り組み、今年も牧場体験も約90件受け入れています。

おわりに

今後の牧場の目標は、現状維持。糞尿処理は限界に近く、これ以上の規模拡大はしないと明言されています。経営面では、繁殖を最優先して獣医に依頼されており、平均分娩日数は400日を切っています。WCSも、刈入れ日を厳しく指定し、単なるワラではなく成分の良い品質のものを作り、経営を安定させ

せる現状を継続したいとのことでした。

伊藤さんの視野には、牧場というベースに立って、地域の活性化や中間地の景観保全、地域の雇用を創造する、まさに農村活動の中心的役割を担っていることに魅力を感じておられるようでした。今までの酪農見て歩紀とは、異例と言える内容となりましたが、伊藤さんの地域貢献の姿勢を強く感じられた取材でした。

取材当日は、登熟期にある飼料用イネの刈取り日であり、お忙しい中お時間を頂きありがとうございました。

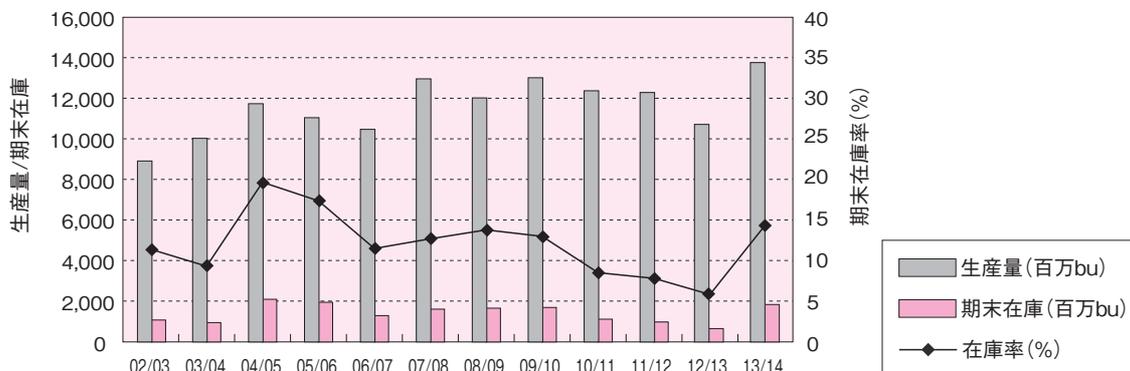


牧場体験の寄せ書き

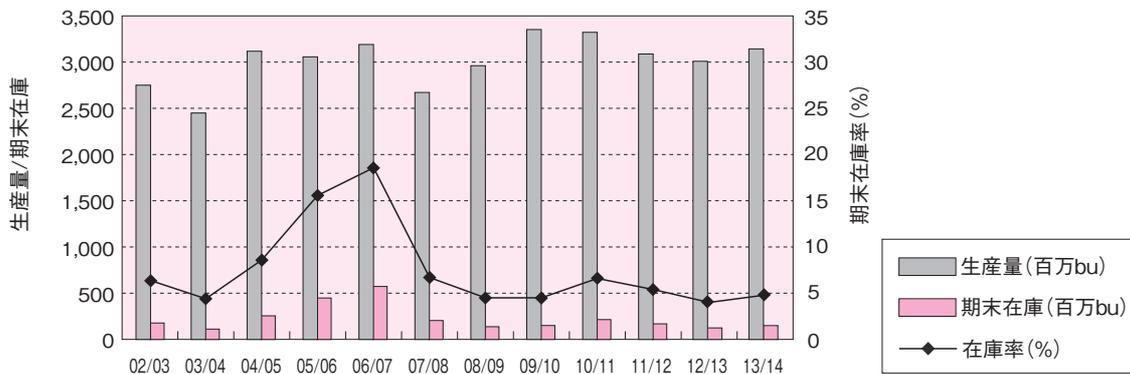
原料情勢 平成25年9月

9月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4(123.4) bu/エーカー、生産量107億8,000万(107億8,000万) bu、総需要量112億7,000万(112億1,500万) bu、期末在庫6億6,100万(7億1,900万) bu、在庫率5.9(6.4) %。</p> <p>【13/14年産】 作付面積97.4百万(前月97.4百万) エーカー、単収155.3(154.4) bu/エーカー、生産量138億4,300万(137億6,300万) bu、総需要量126億7,500万(126億7,500万) bu、期末在庫18億5,500万(18億3,700万) bu、在庫率14.6(14.5) %。</p>
トウモロコシ 相場動向	<p>単収、生産量の下方修正があり一時は500¢程度まで値を上げたが、9月に入り大豆相場の反落、エタノールの生産量減少、在庫率UPを受け値を下げ、現在は470¢前後の値動き。主産地の米国中西部では収穫が開始されており、豊作になる可能性が高まっていることから弱含みの展開が予想される。ブラジル、ウクライナも豊作であり、シカゴ相場に影響を与える見込み。ただし、原油相場が強含みの展開であり、エタノール需要にも注意が必要。</p>
国内産大豆粕	<p>米国産大豆需給予想の13/14年は単収が減少し大幅減となり、期末在庫見通しは1億5,000万(2億2,200万) bu、在庫率4.8(6.9) %。大豆生産地の天候が生育に適した状況であったため軟調に推移していたが、8月中旬以降は高温・乾燥傾向となり、生産量の減少懸念からシカゴ相場は急騰し、この1か月で1,200¢前後から1,350¢へ値を上げた。そのため国内産大豆粕価格も強含みで推移している。輸入大豆粕についても、輸出国の需要が旺盛であるため堅調に推移している様子。今後は、米国産大豆は生育期の終盤に差し掛かっており、天候よりも生産量が相場に影響すると思われる。</p>
槽糖類	<p>フスマは発生量、使用量ともに大きな変動はないが、輸入フスマの使用量が増加しており、需給は徐々に改善する見込み。グルテンフィード発生量は、ピークを過ぎ減少傾向。このままのペースでは受け渡し不安定になる可能性が高い。今後は、グルテンフィード、フスマ共に、輸入数量と新穀トウモロコシの配合割合が影響すると思われる。</p>
海上運賃	<p>原油相場は、シリア情勢不安から強含みで推移していたが、米露間でシリアの化学兵器を国際管理し廃棄させる日標で合意し、相場は落ち着きを見せている。海上運賃は、中国向け鉄鋼石の荷動きが活発化していることから9月に入り高騰している。今後は米国の新穀開始、冬場の燃料需要から強含みの展開が予想される。</p>

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



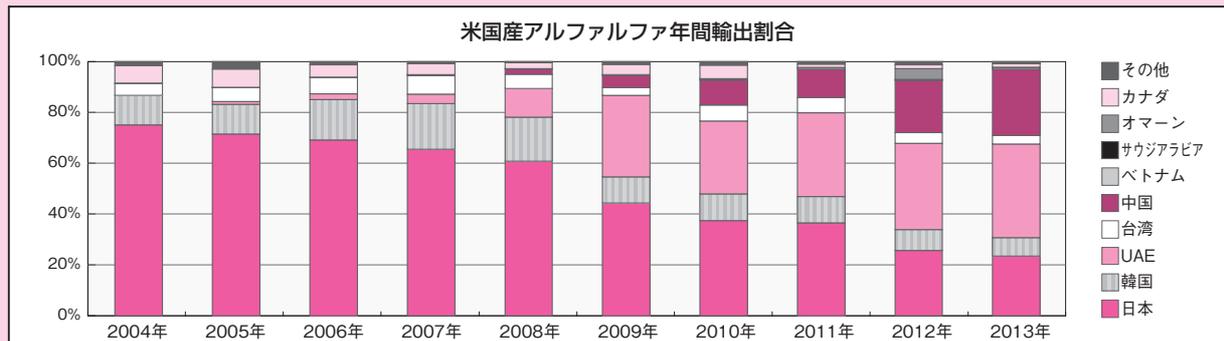
米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢 平成25年9月

北米コンテナ船 フレート	10-12月分のBAF(燃料費調整係数)は、10月から\$5の値上げ実施が発表された。多くの船会社で9月1日付で発表されたGRI(基礎レート)\$100値上げは10月1日に延期される模様。PSWのオークランド港ではストライキが解除されたが、混乱が続き船積み遅延が発生している。PNWでも輸用量が輸出量に追いついておらず、空コンテナが不足した状態が続く。
ビートパルプ	【米国産】13年産作付の進捗が遅れていたが、その後の生育は順調で、少しずつ遅れは回復してきている。砂糖の相場価格が低調に推移していることから、13年産の作付面積・生産量は過去5年の平均より減少することが予想されている。 【中国産ほか】中国産の13年産作付面積は、12年産より減少。国内市場の拡大が進み、国内向けの需要もさらに増えることが予想されているため、韓国や日本向けの輸出量は今後とも限定的となる見込み。世界的に砂糖の相場価格が低調に推移していることから、欧州産の13年産作付面積も大幅減が予想されている。
アルファルファ ファハイ	【中東・中国需要動向】米国産アルファルファの輸出量について、11年まで日本がトップだったが、12年にUAEに抜かれ、今年1-6月では中国に抜かれ、第3位となっている。今まではUAEや中国向けはスタンダード品以下が中心だったため日本とまぐれ分けがされていたが、今後はプレグレード品も求めるようになると予想されており、日本との競合が見込まれる。 【ワシントン産】13年産の1番刈は、雨当たり被害が多く発生し、南部では90%が雨当たり品となった。2番刈は生育中に非常に暑く乾燥した気候が続き、分析値の良くないスタックが発生している模様。産地では、3番刈の収穫が開始しているが、8月上旬に降雨があり、雨当たり品や色あせが目立つスタックが多く発生している。 【オレゴン産】13年産の1番刈の収穫は、6月の降雨の影響で、クリスマスバレーでは4割、クラマスフォールズでは1~2割の雨当たり被害が発生している。どちらも春先に冷涼な気候が続いたため、茶葉や茶色い茎が散見されるスタックが多い。2番刈は7月中旬から収穫が始まっているが、クリスマスバレーでは8割程度の雨当たり被害が発生している。降雨で収穫スケジュールが遅延しており、3番刈の生産量が少なくなることも予想されている。 【ネバダ産】1番刈は2~3割の雨当たり被害が発生している。産地では2番刈の収穫が7月上旬から開始されているが、生育中に暑く乾燥した気候が続き分析値の良くないスタックが発生している模様。 【ユタ産】1番刈の雨当たり被害はなかった。2番刈の収穫が7月上旬から開始されたが、5割の雨当たり被害が発生している模様。現地では現在3番刈の収穫が進んでいる。サプライヤー間での買付競争が激しくなっている模様で、産地価格は堅調に推移している。 【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、6番刈の収穫が進んでいる。品質が落ちてきているため、牧草向けより種取り用の圃場も多くなっている。国内向け・輸出向けの需要はカリフォルニア中央から北部へ、あるいは他州へと広がり始めているとも伝えられている。
チモシー	【米国産】主産地のコロムビアベースンとエレズバークでは、8割が雨当たり被害を受けている模様で、中間グレード品がプレグレード品に、というようにグレードダウンがずれてきているとも伝えられている。また、8月上旬にも降雨があり、収穫中の2番刈も一部で雨当たり被害が発生している模様。産地価格は堅調に推移し、中間以上のグレードは「史上最高値」で推移しているため、特に酪農向けは費用対効果のある価格帯でいられるのか、産地では疑問視されている。 【カナダ産】レスブリッジでは1番刈の収穫が終了したが、雨当たり被害が発生しており、ハイグレード品の発生は限定的。ドライランドでは、1番刈りの収穫が7月中旬から開始され終盤を迎えているが、こちらもハイグレード品の発生は限定的。米国のサプライヤーもハイグレード品の不足を補うために積極的に買付けに来ているとも伝えられており、米国産と同様に価格は手の届かないところまで高騰している。
スーダン	【インベリアルバレー産】1番刈は、収穫前に暑い気候が続いたこともあり、茎サイズにバラつきがあり、予想以上に茎細のプレミアム品が少ない模様。産地では早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅蒔き(アフターウィート)の収穫が終盤を迎えている。例年より少し早い7月中旬に湿度が高くなり始めたため、茶葉混じりのスタックが多く発生している。軟化が予想されていた産地価格も、チモシーの情勢から引合いが強くなり、徐々に強含みに転じている。また、8月下旬に豪雨が降ったため、圃場のスタックは集荷が困難となり、茎太のローグレード品の発生量は予想よりも減少する可能性がある。
クレイン グラス	インベリアルバレーの8/15時点での作付面積は前年対比118%の16,656エーカー。産地では4番刈の収穫がほぼ終了しており、早い圃場では5番刈りの収穫が始まっている。8月下旬の豪雨で一部の圃場で雨当たり被害も発生しているが、5番刈には影響が出ていない模様。産地価格は韓国向けの引合いが弱く推移しており、前年度より少し軟化して推移している。
ストロー類	13年産の米国産ストロー類の収穫は、7月上旬から開始され、雨当たり被害はほとんど発生していないが、特にトールフェスクは韓国向けの引合いが堅調であり、産地価格は軟化せずに推移している模様。
オーツヘイ	西、南、東の全ての輸出向け産地で、12年産はハイグレード品がほとんどで中間・ローグレードの発生量が少なく、雨当たり被害を酷く受けた11年産と真逆の作柄となった。一時期に比べると米ドル対比で「豪州ドル安」で推移しており、日本側の輸入価格も若干弱含みで推移始めている。産地では、13年産の播種が終了した。東豪州では5月まで乾燥した状態が続いており、播種の遅れと生育が懸念されていたが、その後は適度な降雨があり、生育は順調に進んでいる模様。キャノーラ(菜種)の相場価格が引き続き高値で推移していることから、13年産オーツヘイの作付面積は大きく減少することが早くも予想されている。

米国産アルファルファ年間輸出割合

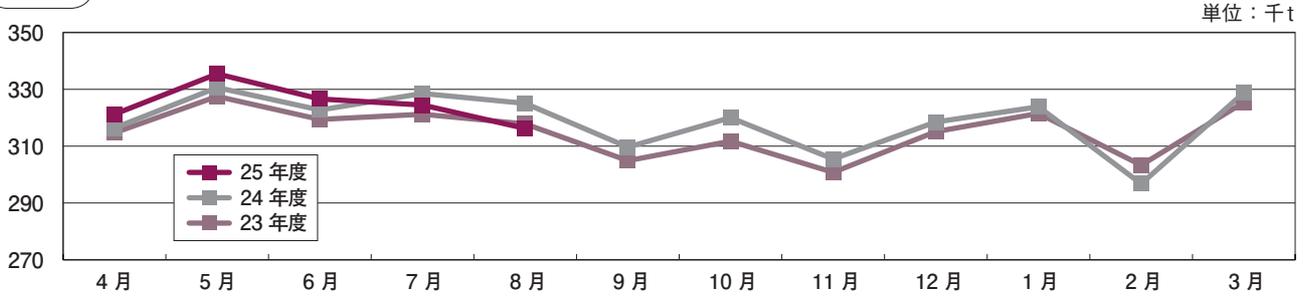


生乳受託販売乳量

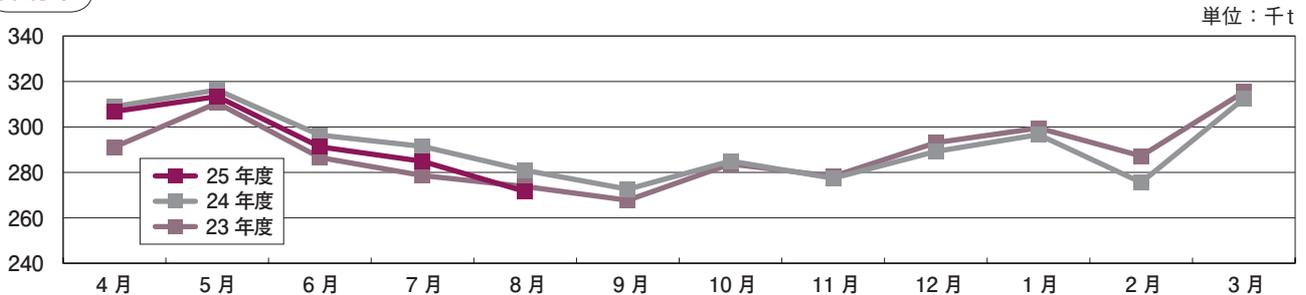
受託販売乳量

全国	587,840t で、前年同月に比べ 18,149t(3.0%) 減少した。	都府県	271,616t で、前年同月に比べ 9,314(3.3%) 減少した。
北海道	316,224t で、前年同月に比べ 8,834(2.7%) 減少した。		

北海道

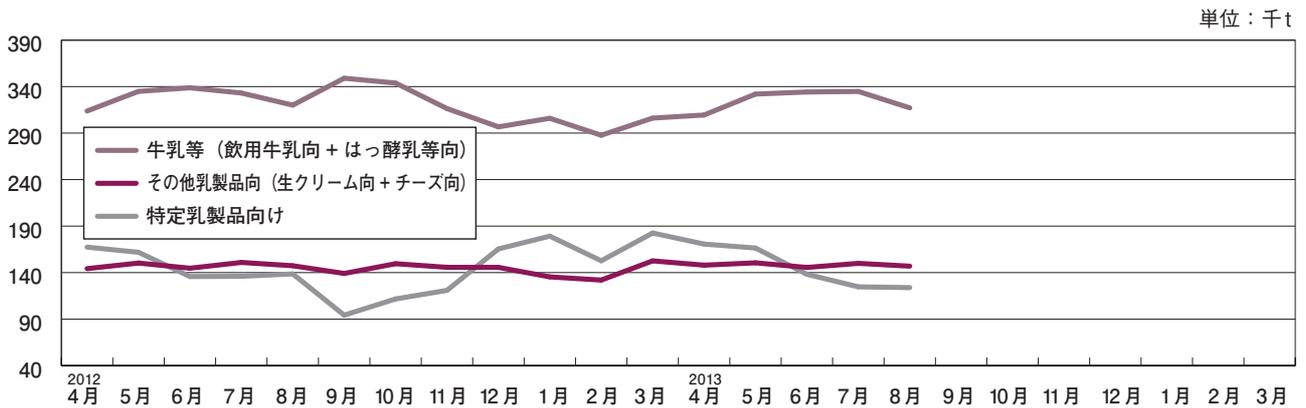


都府県



用途別販売数量

飲用向	273,383t で、前年同月に比べ 2,729t(1.0%) 減少した。	チーズ向	38,136t で、前年同月に比べ 2,228t(5.5%) 減少した。
はっ酵乳向	43,717t で、前年同月に比べ 230t(0.5%) 減少した。	特定乳製品向	123,839t で、前年同月に比べ 14,732(10.6%) 減少した。
クリーム向	108,763t で、前年同月に比べ 1,771t(1.7%) 増加した。		



各地の需給動向

* 前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

- 【仙台】 8月生産は前年比97.7%。お盆時期に猛暑となり、生産減少要因により逼迫した。その結果、飲用向け需要は98.5%と若干回復、特定乳製品向けは82.8%と大きく減少した。発酵乳は105.4%と引き続き好調を維持。
- 【関東】 7月下旬から生産がV字回復し、8月上旬は横ばいで推移。お盆前の週末に酷暑となり、中旬は生産急落、下旬はやや回復し、全体で前年比97.1%となった。販売では、飲用牛乳向けが101.3%と5か月連続で前年を上回った。その結果、乳製品向けは82.8%と前年を大きく下回った。
- 【東海】 生産は、中旬に大きく減少。下旬はやや回復し、全体では前年比96.2%となった。
- 【近畿・中国・四国】 8月の生産量は、7月下旬から生産量が戻ったため上旬は横ばい。中旬は猛暑の影響で想定以上に落ち込んだ。8月全体では近畿94.2%、中国95.9%、四国95.0%となった。一方需要は、生産減少の影響で中旬は逼迫した。(飲用牛乳向け前年比：近畿94.7%、中国96.3%、四国96.9%)
- 【九州】 生産は猛暑日が続いた影響で、上中旬にかけて大きく減少。8月全体では前年比96.7%となった。販売は、飲用牛乳向けが95.0%、特定乳製品向けが89.4%となった。

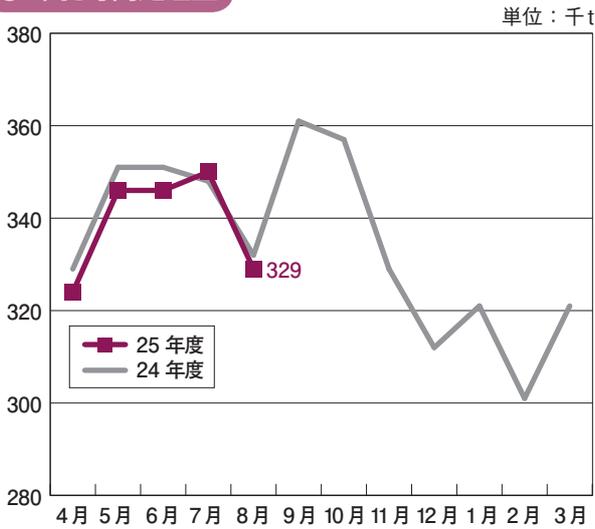
用途別生乳処理量

単位：千t

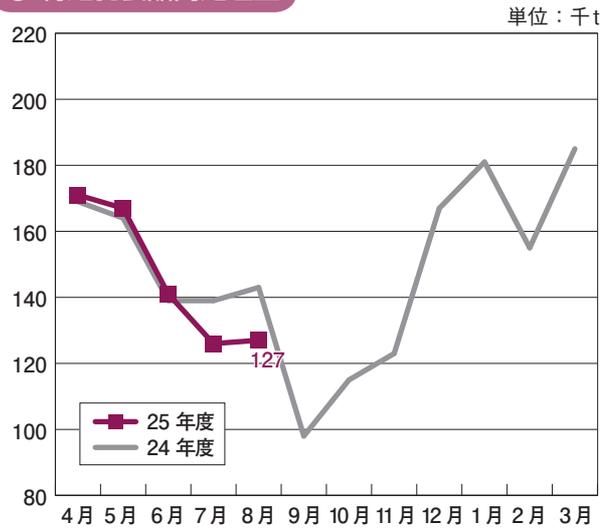
年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向			クリーム向 ③	チーズ向 ④	牛乳等向 ①			乳製品向	クリーム向 ③	チーズ向 ④				
			特定乳製品向 ②	その他乳製品向										特定乳製品向 ②	その他乳製品向		
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	8月	608	603	329	274	127	147	107	40
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	9月								
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	10月								
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	11月								
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	12月								
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	2014. 1月								
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	2月								
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	3月								
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	年度計	3,199	3,176	1,695	1,480	732	748	535	214

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

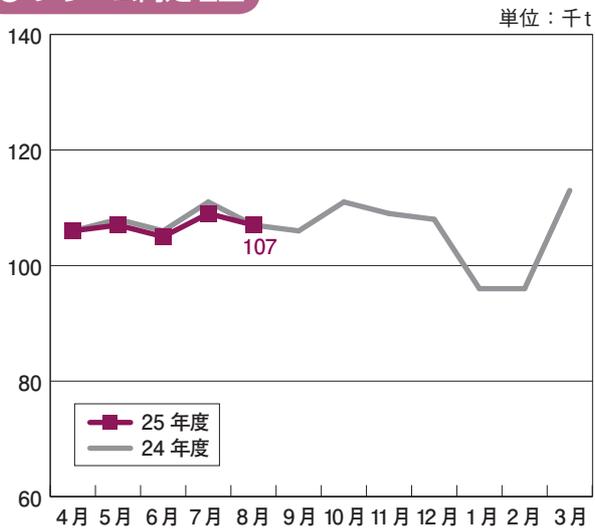
① 牛乳等向処理量



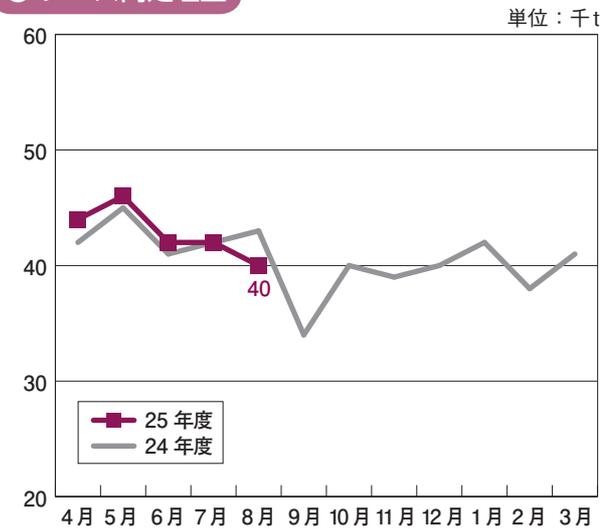
② 特定乳製品向処理量



③ クリーム向処理量



④ チーズ向処理量



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

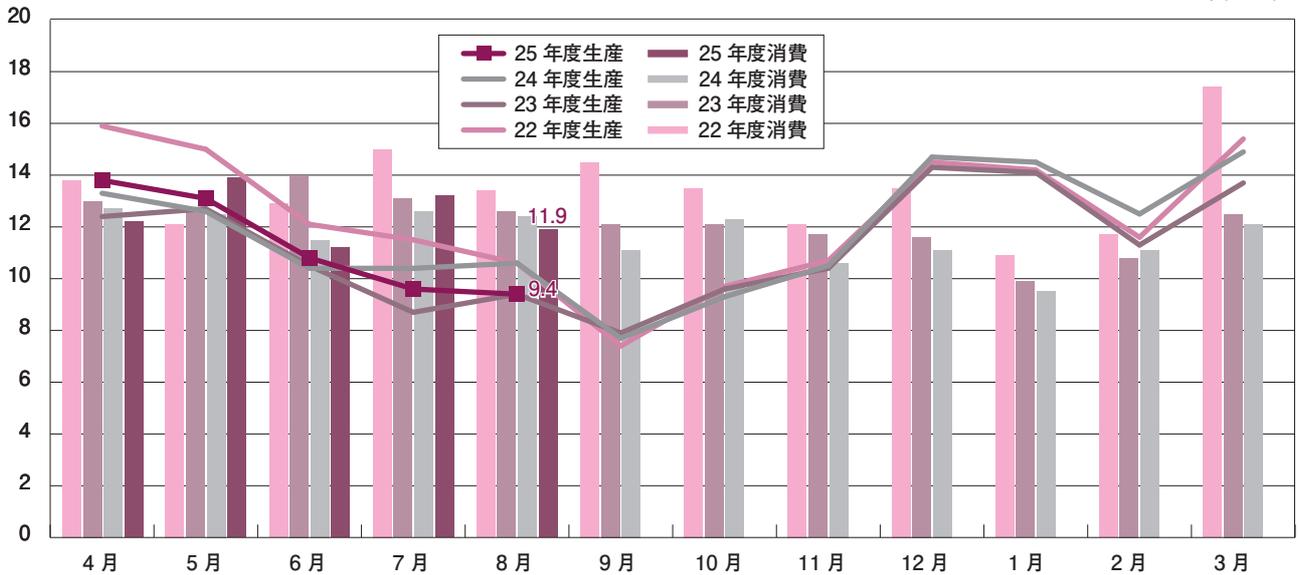
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	13.9	7.0	5.5
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	11.2	5.7	5.8
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月	9.6	13.2	5.1	5.8
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月	9.4	11.9	5.1	5.7
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月				
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月				
11月	10.5	10.9	4.8	5.7	11月				
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月				
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月				
2月	12.5	13.9	6.3	6.5	2月				
3月	14.9	17.7	7.4	8.7	3月				
年度計	141.4	148.5	70.1	76.7	年度計	56.6	57.8	29.9	28.9

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

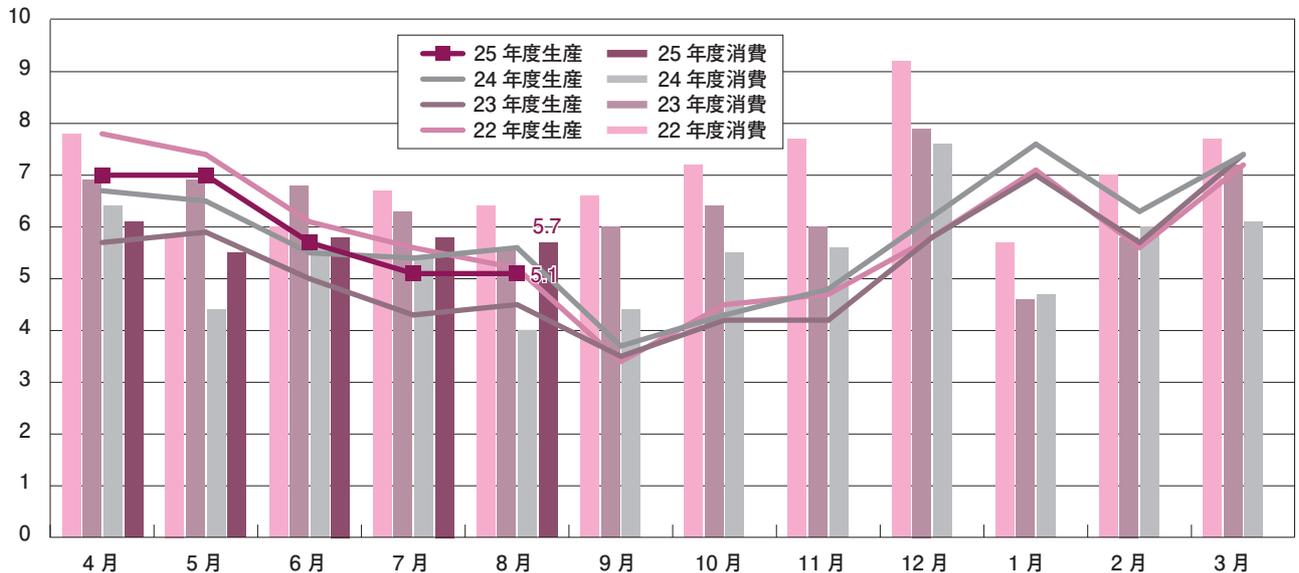
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	25.0	1,177	50.7	600.19
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	24.5	1,178	48.3	600.00
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				

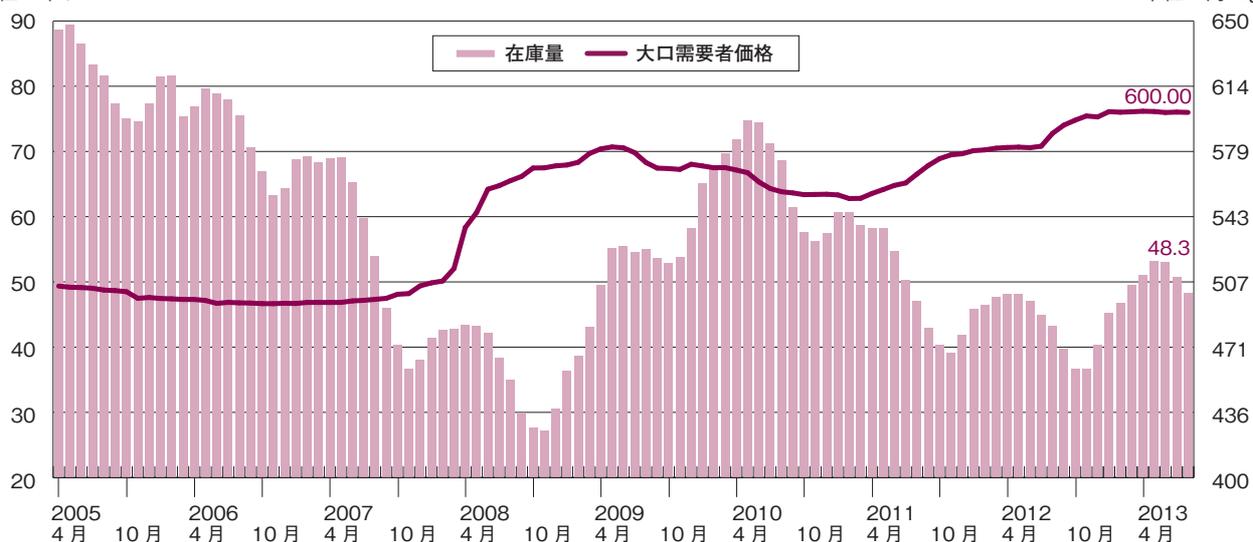
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

※単価は税抜き

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：千t

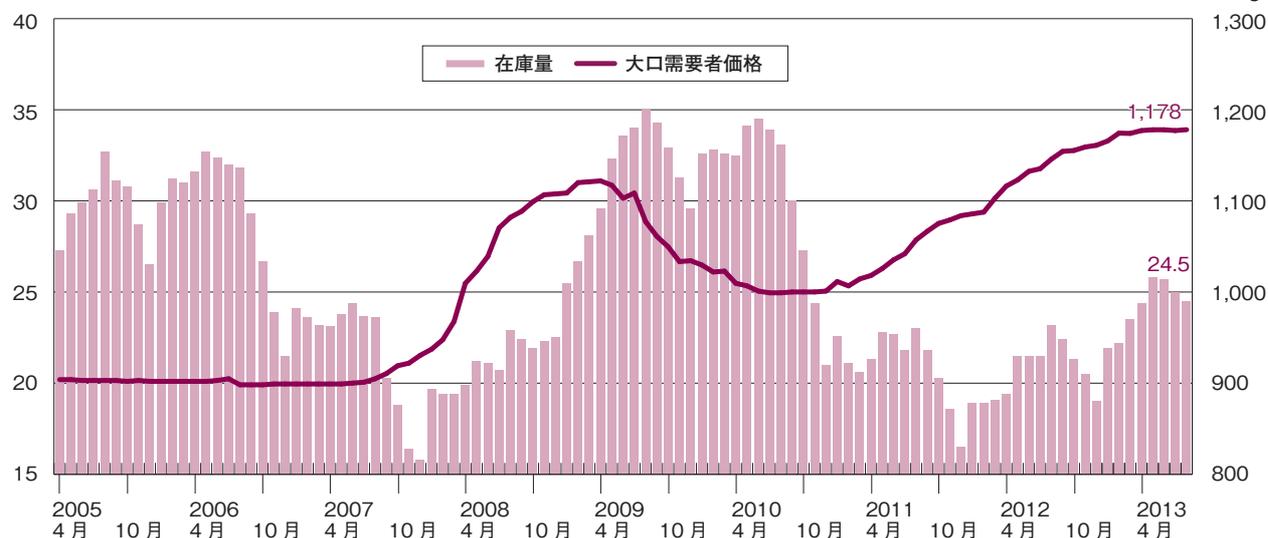
単位：円/kg



バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：千t

単位：円/kg



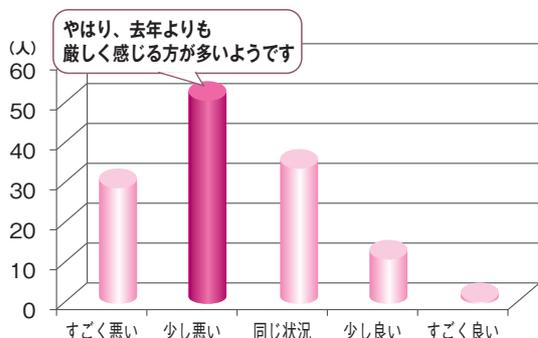
酪農満足度アンケート集計結果報告

後継者支援対策チームでは、全国酪農青年女性酪農発表大会(7月25日～26日 於:熊本県)において「酪農満足度アンケート」を実施しました。アンケートの目的は、酪農経営の「厳しさ」と「豊かさ」を“見える化”することです。この集計結果を家族全員で見えていただき、牧場の現在の状況はどうか？ 10年後の牧場の姿は？など、家族で話し合うきっかけにして頂きたいと思います。なお、アンケートには136名の協力を頂いております。

質問 1

昨年同時期と比較し、酪農経営の状況はいかですか？

経営状況

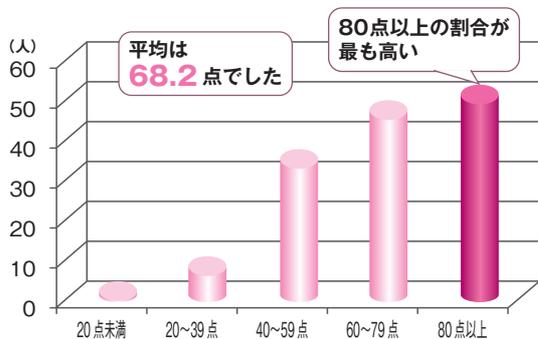


「すごく悪い」「少し悪い」の合計が79名、「同じ状況」「少し良い」「すごく良い」の合計が57名でした。飼料高騰の影響を強く受けていると考えられます。

質問 2

あなたの酪農満足度は何点ですか？

酪農満足度



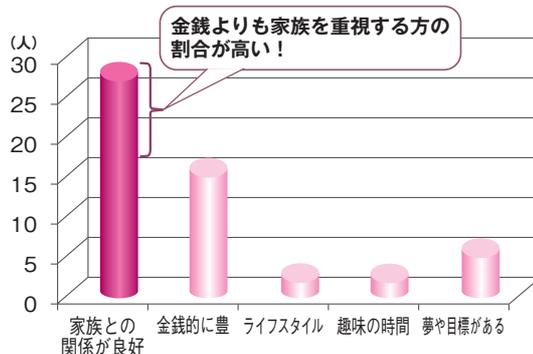
最も多い回答が「80点以上」の49名、次が「60点～79点」の45名という結果となりました。平均値は68.2点です。質問1では、経営状況の厳しさを感じられましたが、その結果とは反比例し、酪農経営全体の満足度は高いと言えます。

質問 3

あなたにとって、酪農生活の「豊かさ」とは？ (優先順位を付けてください)

- ①家族との関係が良好であること
- ②金銭的に豊であること
- ③酪農というライフスタイル
- ④趣味の時間を持てること
- ⑤家族共通の夢や目標があること

満足度80点以上の人の意識



質問2の「満足度」を具体化するために、上記5項目に重要度の順位付けをしていただきました。満足度80点以上の方に絞って分析してみると、家族との関係を重視している方の割合が高いことが分かります。これらの結果から、「家族の強い絆が酪農経営を豊にする」と言えそうです。

また、アンケートとは別に、下記のような意見も欄外にありました。

「お金にならない、乳価何とかして！」

「何事も心の豊かさが大切です。」

「経営状況は最悪ですが、それでも楽しみを見つけて頑張っています！」

「野菜の販売を手掛けてみると一番効率よく売れるのは牛乳だと思う。ただし、借入金がなければ」

スムーズな経営継承には、家族間の意思疎通が欠かせません。後継者支援対策チームでも最も重視しているポイントです。今後も家族の絆を深められるような支援を行っていきます。



新		旧	氏名
■平成25年10月15日付異動発令			
仙台支所 支所長		仙台支所 支所長 兼 指導組織課長	直 則 光 板 倉 雅 治
仙台支所 指導組織課長		指導企画部 企画課 課長代理待遇	

北海道 乳牛産地情報

平成25年10月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~32	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で95.6%、累計で99.1%、苫小牧管内月計で96.9%、累計で96.6%の実績となっております。10月の初妊牛の動向ですが、夏季放牧からの下牧は平年並みの10月20日前後になるものと思われます。資源的には例年並み、初妊牛価格は横這いで推移し、育成牛につきましても同様な傾向になるものと見込まれます。
	初妊牛	48~53	→	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~37	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で98.1%、累計で100.6%、中標津管内月計で95.6%、累計で98.6%の実績です。10月の初妊牛の動向は、先月に引き続きメガファームの導入が活発でその動きに合わせて相場も上向き状況です。また、交雑種初生牛価格も依然として高いことから初妊牛価格の動きも、F1腹>ホル選別腹>少し価格差が空いてホルス腹の流れになっております。今後もメガファーム中心で価格帯は動くと思われますが、一方で地元新規就農者による購買も盛んになるため、ホルス腹についても相場上昇が見込まれます。資源については現在の所、変わりはないものの、当管内では他管内より購買の流れが早いため、2~3か月先の分娩月を中心として購買されるよう、早めの手配をお願いします。
	初妊牛	50~56	→	
	経産牛	40~47	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で100.0%、累計で100.6%の実績となっております。10月の初妊牛動向につきましては12月~1月分娩腹中心となり、都府県需要増加に道内の大型牧場の購買も重なり、引き合いが強くなるものと思われます。10月下旬ごろから放牧地からの下牧が始まりますので資源はまだあると思われませんが、荷動きが早いいため、購買予定がございましたら、お早めに連絡いただきますようお願い申し上げます。
	初妊牛	50~55	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.6%、累計で100.7%、北見管内月計で98.0%、累計で100.1%の実績で、9月に入り回復傾向にあります。10月の初妊牛の動向につきましては、12月~1月分娩腹中心となり都府県需要も増大しつつあり価格動向については注視が必要です。特に全道共進会後の購買需要が多いのが毎年の傾向です。
	初妊牛	47~55	→	
	経産牛	35~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	28~35	→	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は月計で97.9%、累計で99.8%の実績となっております。10月初妊牛動向としては、9月に引き続き都府県のメガファームの導入が相場を引っ張る形となり、また、交雑種初生牛価格は依然として高いことから、F1腹は高値維持、引合いの弱いホルス腹は安値傾向となり、価格差が一段とつく予想です。資源については10月下旬より下牧も始まりますが、荷動きも地域間によって違うため、購買手配がございましたら早めの手配、注文をしていただきますようお願いいたします。道内においては朝晩の気温差も激しくなり、来道される際は風邪等引かぬよう、お気を付け下さい。
	初妊牛	49~55	→	
	経産牛	42~48	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

そんなに僕のこと好き？

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で入選された作品「そんなに僕のこと好き？」(岡山県 水島 一哉氏 撮影)です。牛に舐められそうな瞬間ですが、男の子の嬉しそうな、くすぐったそうな豊かな表情が素晴らしい作品です。



shidokkaku@zenrakuren.or.jp

▼めっきり秋の空気になり、朝夕は寒さを感じるようになりました。季節を感じられる日本はとても良いですね。
 ▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記

お詫びと訂正

先月9月号(No.576)の会報表紙写真において、衛生上好ましくない行為であるとのご指摘を受けました。お詫びいたします。

平成25年10月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION
 全酪連会報 10月号 No.577

●編集・発行人 中島 裕志郎
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
 http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

仲良しな牛たち

男衾小学校(関甲信)5年 杉田 生璃



今月の入選作品は、男衾小学校(関甲信)5年の杉田 生璃さんの「仲良しな牛たち」です。

牛舎の中の様子がうまく描けましたね。人や牛さん、扇風機の配置に繊細さを感じます。バケツを持った後ろ姿のお母さんのファッションが絵に華やかさを与えています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議